



平成27年度 中央区地域活動協議会活性化セミナー
どなたでもお気軽にご参加ください
主催/中央区まちづくりセンター 大阪市中央区役所
お問合せ/TEL (478) 8183 chuku-support@city.ohkai.na.jp

第2回

地域の輪を広げましょう！

参加無料
申込不要

地域活動協議会がスタートして2年
地域活動の輪がどんどん広がっています。
今回のセミナーでは、地域活動の輪を広げる取組みの
ヒントを区内の各地域からご紹介いたします。

★「よーさん来てるなあ〜」新たなイベントを新たなメンバーが加わり実現！
・・・高津地域、桃園地域、南大江地域 など

★「合い言葉は、ネットで見たよ」インターネットで子育て世代を集客！
・・・中央江地域 など

※他にも多数の地域から、地域活動の輪が広がっている取組みをご紹介いたします。
後半は、会場全体をまじえでの、パネルディスカッションで、地域活動の輪を広げるヒントを
話し合います。成功事例のツボを知るチャンスです。

日時 平成27年 9月3日(木) 午前7時 場所 中央区役所7階

平成27年度中央区地域活動協議会活性化セミナー

第2回

地域の輪を広げましょう！

〔記録集〕

平成27年9月3日(木) 主催/中央区まちづくりセンター・大阪市中央区役所

中央区まちづくりセンター主催のセミナーの第3弾として、「平成27年度 中央区地域活動協議会活性化セミナー～地域の輪を広げましょう！～(第2回)」を開催しました。

地域活動協議会が発足して以降、区内の各地活協では、これまで各団体で行われてきた事業を引き続き継続・拡大しながら、企業との連携、広報の強化による新たな住民の参加促進、外国籍住民との交流、小学校下など地域を超えた連携など、新たな事業にも取り組まれています。こうしたそれぞれの地域の特性を踏まえて新たに取組まれている事例を各地域での活動のヒントにさせていただくために、第一部では、中央区内の5つの地活協の取組みについての「事例紹介」を行い、第二部では、紹介いただいた事例をもとに、会場からの質問を募って「パネルディスカッション」を行いました。地域役員の方など30名を越える参加があり、地域を超えた情報交換や交流の機会、活動の広がりのきっかけとなりました。当日の概要について、以下に紹介します。

第1部 事例紹介

1. 地域のお年寄りから子どもまで一緒に集まって楽しむお祭り

「高津まつり」高津地域活動協議会 会長 山口 滋万磨さん

● 青年三団体の発案がきっかけでイベントを企画、一から手作りで事業の立ち上げ

高津地域では、地域の活動に参加する新たな人材の発掘が課題となっていました。そこで、青年三団体からの発案がきっかけで、地域住民どうしや各団体の親睦を深めるために「高津まつり」が企画されました。

イベント当日まで、小学校との調整や、イベントを盛り上げるために企業など各方面への協力依頼、住民への周知、前日・前々日と深夜まで及んだテント等の設営など、みんなで協力して一から準備を積み重ねました。当日は、高津小学校の卒業生で文楽の豊竹咲寿大夫さんが描いたオリジナルのTシャツを着用して団結力を高めました。

● 大成功の「高津まつり」が他のイベントの起爆剤に

当日は予想を超える 300 名以上の参加者が集まり、団体や世代を超えた交流の場になりました。連合や女性会など 130 名以上がスタッフとして関わり、イベントを通して団体どうしのつながりが強くなりました。また、高津まつりをきっかけに、その後のイベントも参加者が増えています。



各団体の協力で、多くの人で賑わいました



オリジナルTシャツで気合いが入ります

● 第2回「高津わいわい祭り」を企画

第1回が好評であったことにより、第2弾を企画。長年、高津小学校PTAの主催で実施してきた「わいわい祭り」と企画を統合して「高津わいわい祭り」として10月に開催します。

2. マンション等の新たな住民の参加の機会を創出！

「モーニング喫茶」「納涼ビアガーデン」 桃園地区地域活動協議会 会長 浦野 皖次さん

● マンション住民の地域活動への参加が課題

桃園地域は長屋が多く残される地域ですが、近年マンションが増えてきました。平成24年度の住民アンケート調査結果から、マンション住民の町会に対する認知の低さと、新たな住民の地域活動への参加、住民間の交流などが課題として挙げられていました。

● 3世代にわたって参加できる、日曜朝のモーニング喫茶

平日働いている人をはじめ、誰でも参加しやすい行事として、日曜日の朝にモーニング喫茶をはじめました。当初から毎回約100名が参加、最近は130名ほど来られることもあります。

運営スタッフは子育て世代をはじめ若い方にも協力してもらっていて、子育て世代や3世代で参加される方など様々な世代が参加されています。



これまでに無かった、3世代が集まる行事に



スマホ等を通じた口コミが広がり、当日は大盛況！

● 大人も子どもも楽しめる「納涼ビアガーデン」

名前のお通り、涼んで、飲んで、楽しむイベントです。今年で2年目ですが、8月の最終土曜日に開催しています。スタッフとして参加される方も若い方がおおよそ30名手伝ってくれています。参加者も、運営する側も、友達どうしで楽しく参加されています。

2014年に実施した際の参加者向けアンケートによると、30～40代の参加が半数以上、マンション住民の参加が約6割という結果になっています。隣の地域からも参加者が集まるなど広がりを見せています。

3. みんなで楽しく！みんなと一緒に！

「南大江健康ウォーク」 南大江地域活動協議会 会長 伊藤 弘一郎さん

● 新旧住民の交流を目的に、楽しいイベントを

南大江地域でも、マンションの増加に伴って、人口が増えているという背景があります。そんななかで、はやく地域に馴染んでいただくことと、地域に昔から住んでいる人と新しい人が交流してもらうこと、高齢者の孤立を防止することや、健康の増進を目的に、地域活動協議会が立ち上がってすぐに企画をしました。



30代から90代まで、世代を超えた交流の場になっています

● 参加者が増え、年中行事に

みんなで健康に歩いて交流するイベントで、第1回は奈良、第2回は京都、第3回は神戸で実施しました。「中央区まちなすぐれもん」などに協力してもらい、参加者は回を重ねるごとに増え続けています。みんなで歩いて、和気あいあいと話を弾ませながら、たくさん交流して、無理なく楽しみながら高齢者の健康に結びつけることができます。来年はどうするの?と参加者に言ってもらえるなど、年中行事になっています。

4. 孤立しがちなミナミの外国人世帯の交流を促し、見守る 「サウスイーストアジアコミュニティ協会との取組みとフランス文化交流」

精華地域活動協議会 役員 鳥居 学さん

● 困った時に相談できる場をめざして

精華地域活動協議会では、ある事件をきっかけに、フィリピンの方やその親子が、困ったときに相談できる場をつくりたいと設立されたサウスイーストアジアコミュニティ協会と連携し、地域で生活する外国籍の方を対象に文化交流会などを行っています。最初は盆踊りに参加してもらうため、練習をすることからフィリピンの方に集まってもらい、交流を深め、現在では盆踊りや文化交流会、ミュージックケアなどの事業を通して、みなさんと顔を合わせる場をつくっています。



盆踊りの練習が、交流やコミュニティづくりのきっかけになりました



8つの言語が並ぶ案内表示

● 日本の文化を見直す機会にも

南小学校では全校生徒170名のうち42%が外国籍の親をもつ児童、トイレの案内表示も多数の言語で書かれている背景があります。そんななかで、大阪ミナミ、日本の文化と外国文化交流の場として、伝統芸能である猿回しや飴細工、フィリピンのバンブーダンスを紹介し相互の文化の理解を促す交流事業を設けました。

● 地域の魅力を世界に発信

パリ18区と大阪ミナミには歴史的に見ると共通点が多く、ビデオレターを通じた児童交流がはじまりました。今後も交流を進めていきます。

5. 子育て世代の集客に向けた情報発信

「増設した掲示板とFacebook」 中大江地域活動協議会 役員 衣目 成雄さん

● なぜ地活協がFacebookに取り組むのか

中大江地域では掲示板を各町会に増設しており、あわせてFacebookを立ち上げ情報発信を行っています。地域の活動を周知していくなかで、インターネットを使った広報ができれば周知は容易に多くの方に向けて可能になります。特に、Facebookは独自性を作ることは難しいですが、無料でできることと、投稿した内容を見た人が「いいね!」というボタンを押すと、ボタンを押した人の友達にも、投稿した内容を届けることができるという、拡散する力があります。

● 一方で、手軽さゆえの、注意点も必要

簡単に投稿できる分、文章をよく見直すことが必要です。写真や動画はプライバシーに配慮して、特に子どもの顔は載せないといった注意を払っています。インターネットは一瞬で広がります。



素早く、気軽に情報発信できるのがFacebookの強み。その分注意点も必要です!

第2部 パネルディスカッション

第1部で各地域から紹介頂いた事例に対して質問を募り、パネルディスカッションを行いました。

- **新しい団体だから、新しい発想で新しい取組みを行いたいという意見は地域の皆さんから出てきたものですか？**

行政からはいろいろな問題をいただきました、それを解決したのは地域です。地域の皆さんから出てきた意見だから、地域がまとまりました。(高津 山口さん)

- **どのように地域の Facebook を広めているのですか？**

Facebook であっても人と人との実際につながりは重要です。実際に作成したページに他の人が「いいね！」ボタンを押してもらうことから広がっていきます。(中大江 衣目さん)

- **納涼ビアガーデンでの告知の工夫はどのようなものでしたか？**

チラシを積極的に配布しています。また、地活協の年間行事予定もマンションの管理人さんなどに交渉し、配布しています。多く人が来れば、口コミでさらに人が来るので、人の輪が広がります。(桃園 浦野さん)



- **母子家庭の方もいらっしゃいますが、盆踊りの練習の日時はどうしていたのですか？**

フィリピンの方はよく働きます。唯一日曜日は17時頃から時間があくので、そこで練習に来てもらっていました。疲れているはずですが、ニコニコと楽しみながら参加していました。(精華 鳥居さん)



- **新たな取組みを行うにあたって、どんなプロセスやアプローチがありましたか？**

南大江では地域の歌をつくりました。そのなかにはふるさとを自分たちで作っていこう、という歌詞があります。新しい人も昔から住んでいる人も関係なく、一丸になって、楽しくやることを意識しています。(南大江 伊藤さん)

- **アンケートでのご意見**

参加者からは、「実際に活動している人自身の声で情報を発信いただけてよかった」「各地域の活動がしっかり見える化されていた点は意義深い」など、普段接することが少ない他地域のさまざまな取組みを知るきっかけになったという感想が多くありました。また、今後のセミナーの企画に向けては、マンション住民の取り込む方策や企業との連携・協働の仕組みづくりのほか、ホームページの作成や Facebook の運用などのテーマが挙げられました。

「まちセン」までご相談ください！

まちづくりセンターでは、インターネットでの情報発信（Facebook の立ち上げ等）をどうすればよいかわからない、マンション住民の交流や企業との連携など新たな事業の立ち上げたい、他の地域がどうしているか知りたいなど、お悩みの際は、

「中央区まちづくりセンター」までお気軽にご相談ください。

この記録に関する内容、問合せは中央区まちづくりセンター 中央区役所 6階（電話 / 06-4708-8183）